

愛産研 ニュース

愛産研ニュース
平成 16 年 6 月 4 日発行
No.27

編集・発行
愛知県産業技術研究所 企画連携部
〒448-0003 刈谷市一ツ木町西新創
TEL 0566(24)1841・FAX 0566(22)8033
URL <http://www.aichi-inst.jp/>
E-mail info@aichi-inst.jp

6 月号
2004

今月の内容

- 中小企業とナノテクノロジー
- ナノインデンテーション法による薄膜の特性評価
- 射出成形法による人工骨用 Ti-HAP 複合材料の作製

中小企業とナノテクノロジー

昨今、ナノテクノロジー(ナノテク)が種々の分野で注目され、ベンチャー企業だけではなく、中小企業にもナノテクで全国に知られる企業が増えてきています。しかし、中小企業の多くは、自社の製品とは関係がないと考え全く関心がないか、あるいは関心があっても技術的に参入は無理だとあきらめているところが多いと予想されます。

ところが、実際は、ナノテク単独で製品ができることはほとんど考えられず、いわゆるローテクと言われる既存技術の利用が不可欠です。すなわち、ナノテクなどのハイテクはローテクと無関係に存在するものではないということを理解しておく必要があります。言い換えれば、既存技術とナノテクを結びつけるところに、中小企業がナノテク関連事業に参入する機会があると考えられます。日本経済新聞の調査でも、ナノテク関連の研究開発に取り組む理由としては、自社製品の機能や性能を向上するためであると回答した企業が最も多く見られます。

しかし、ナノテクを自社技術と結びつけて製品の機能向上などを考える場合、情報収集はインターネット等でもある程度可能だとしても、実際にはどこでどうすればよいのか分からないということがあります。直接、情報収集で得られた相手先に、連絡してみることも一つの方法ですが、現実には気後れすること多いと予想されます。最近では、当所を始め大学などでも、産官、産学、産学官などの連携を推進する部門が設けられており、相談窓口や担当者が設けられていますので、利用してみることをお勧めします。

当所では、当所のシーズ、大学のシーズ、企業のシーズ等を把握し、希望企業に提供する事業を始めており、とくにナノテク・新材料、ライフサイエンス、環境・エネルギーの3分野では統括研究員を設置し、様々なケースに対応できる体制を整えつつあります。また、自社のシーズを当所や大学と共同で製品化へ発展させるケースへの対応も同様に可能ですので、シーズはあるが製品化への技術的課題がある場合も、ご相談をお受けしています。

どの方法を採用する場合でも、製品化の実現は、製品化する企業が主導権を持ち、外部(当所や大学)の協力を得て、開発を進めるというシステムが、最も成功の確率が高いということが経験的に知られています。つまり、開発の中心目的にはあくまでも自社が対処し、そのために不足している技術を当所や大学などの外部から導入するという考えです。実際には、いろいろな要件が絡み合うと予想されますので、少々のことではあきらめないという熱意も成功への要因として重要であると考えられます。

